

設備工事情報シート	電 気	I-E-4-改 ₁	制 定	2006年4月1日
			改 訂	2014年2月1日

施工要領	接着式ケーブル支持具	ネグロス電工編
------	------------	---------

1. 目的・概要

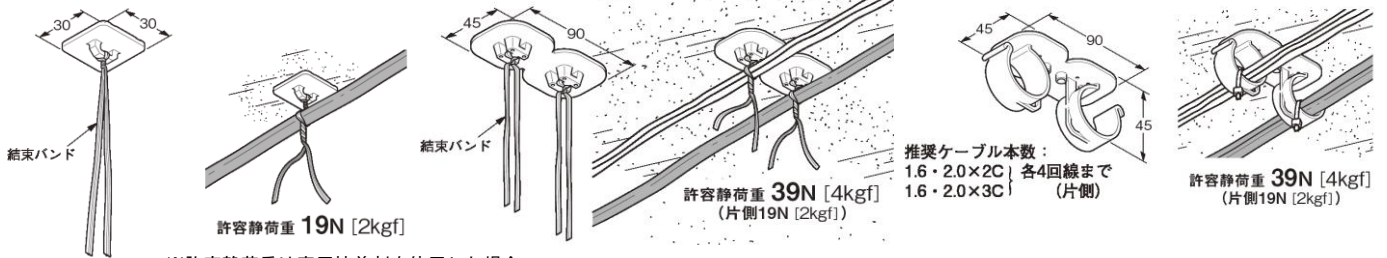
ケーブル配線工事において、配線ルートの変更や追加などに対応できるよう接着式ケーブル支持具での施工が増えている。接着式ケーブル支持具の特性を十分に認識し施工する必要がある。

また、発泡断熱材壁面部のケーブル配線も施工状況に応じて適切に施工する必要がある。

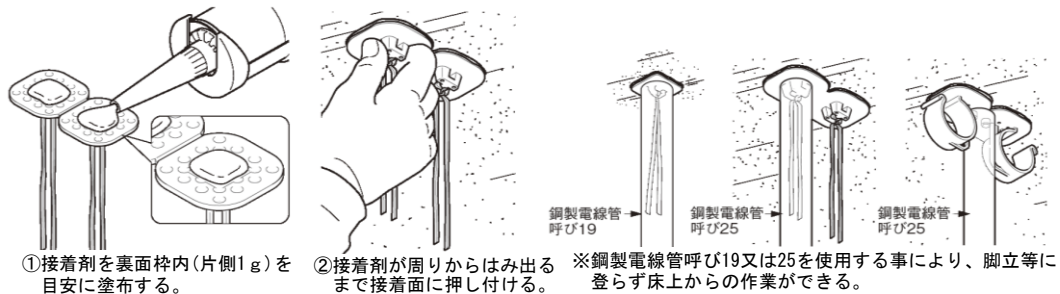
以下に、ネグロス電工(株)の接着式ケーブル支持具及び発泡断熱材用ケーブル支持具を紹介する。

2. 接着剤式ケーブル支持具

(1) 種類及び施工手順



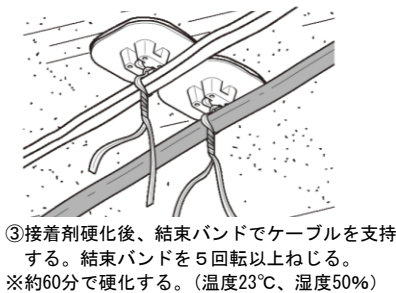
※許容静荷重は専用接着剤を使用した場合。



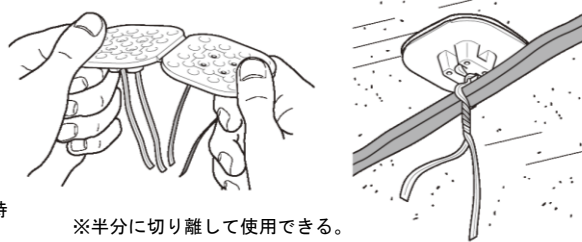
①接着剤を裏面枠内(片側1g)を目安に塗布する。

②接着剤が周りからはみ出るまで接着面に押し付ける。

※鋼製電線管呼び19又は25を使用する事により、脚立等に登らず床上からの作業ができる。



③接着剤硬化後、結束バンドでケーブルを支持する。結束バンドを5回転以上ねじる。
※約60分で硬化する。(温度23℃、湿度50%)



※半分に切り離して使用できる。

【専用接着剤】



シリル化ウレタン系接着剤(無溶剤)
容量: 333m_l (約460g)

※接着剤塗布後、2分以内に貼り付けること。

※容器に記載されている注意事項を守って使用すること。

※開封後、一時保管する場合はノズル先端をビニルテープ等で密栓すること。

(2) 注意事項

①接着面の油分、水分及びホコリを十分に除去してから貼り付ける。

②専用接着剤を使用した場合の硬化時間及び許容静荷重は、作業環境、接着面の状態により異なる。十分に接着したことを確認の上、ケーブル配線を行うこと。

③ケーブル支持点間距離は、電気設備の技術基準の解釈第164条及び内線規程3165節に準じること。

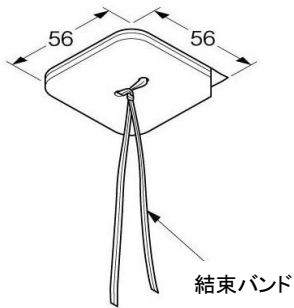
④弱電流電線が雑音等により悪影響を受ける恐れがある場合には、弱電流電線にシールドケーブルを使用する等の適切な方法で配線すること。

⑤適合場所は紫外線のあたらない屋内。

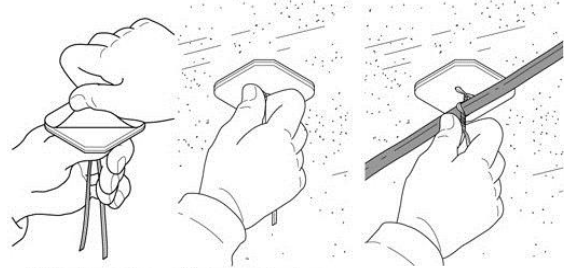
資 料

3. 粘着テープ式ケーブル支持具

(1) 種類及び施工手順



許容静荷重19N[2kgf]
※接着面の状態により異なる。



- ①離型紙を剥がす。
- ②全面を強く押し付け貼り付ける。
- ③結束バンドでケーブルを支持する。結束バンドを5回転以上ねじる。

(2) 注意事項

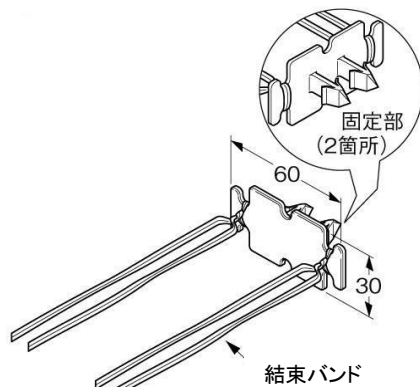
- ①ケーブルの仮止め用として使用する製品で、恒久的な支持には使用しないこと。
- ②接着面の油分、水分及びホコリを十分に除去してから貼り付ける。
- ③寒冷時には少しあたためてから使用する。
- ④適合場所は紫外線のあたらない屋内。
- ⑤直射日光を避け、乾燥した場所で保管すること。

4. 発泡断熱材用ケーブル保持具

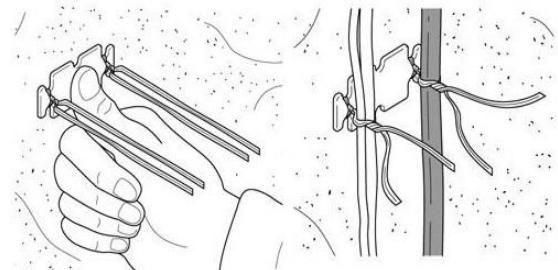
(1) 種類及び施工手順

発泡断熱材屈曲・壁面用（適合発泡断熱材厚：20mm以上）

許容静荷重9N[1kgf]
片側4N[0.5kgf]
※発泡断熱材の密度30kg/m³の場合



本体材質：ポリプロピレン
色：グレー
板厚：2mm



- ①発泡断熱材に底面が当たるまで押し込む。
- ②結束バンドでケーブルを結束する。結束バンドを5回転以上ねじる。

(2) 注意事項

- ①発泡断熱材密度30kg/m³以下では使用しないこと。
- ②施工後にケーブルを引っ張らないこと。
- ③天井面には使用しないこと。
- ④弱電流電線が雑音等により悪影響を受ける恐れがある場合には、弱電流電線にシールドケーブルを使用する等の適切な方法で配線すること。
- ⑤適合場所は紫外線のあたらない屋内。

5. 問い合わせ先

電路支持材：ネグロス電工株式会社 東京都江東区亀戸2-40-1 開発営業部 小林 研一

<http://www.negrosu.co.jp/>

TEL 03-3683-7175 FAX 03-5628-7134